

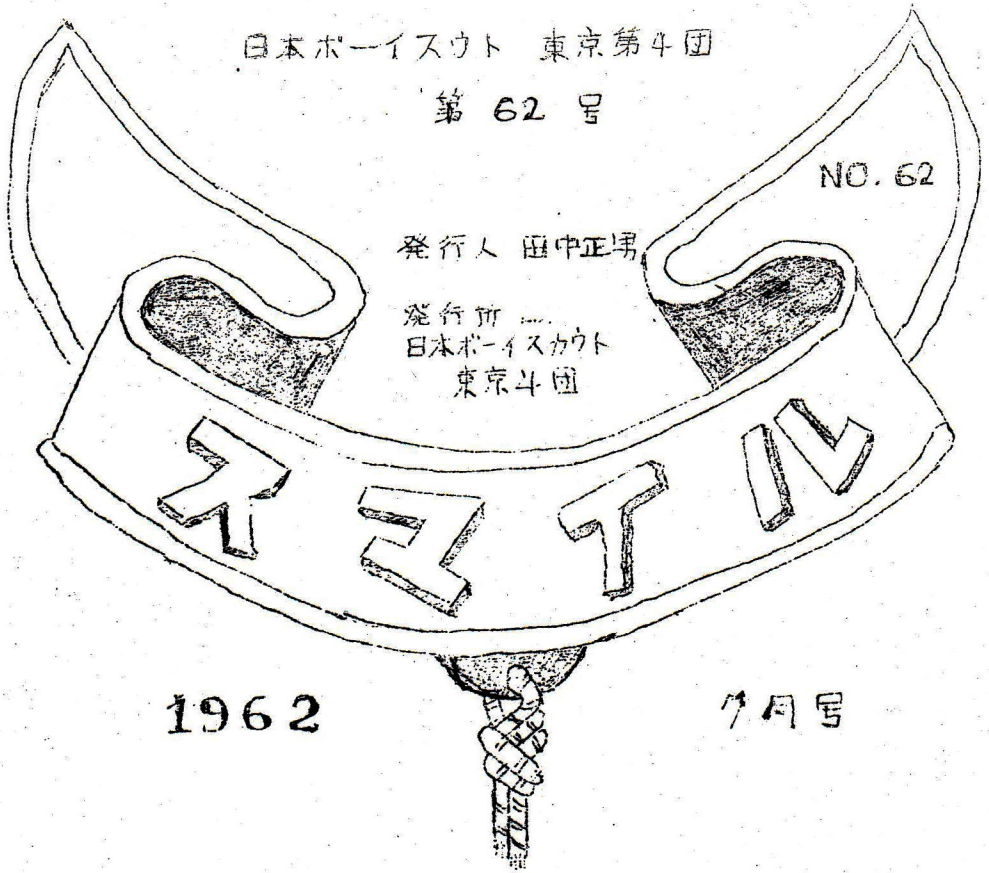
日本ボーイスカウト 東京第4団

第 62 号

NO. 62

発行人 田中正男

発行所
日本ボーイスカウト
東京4団



1962

7月号

十五周年 記念式典

去る五月二十日、午後二時

より礼拝堂で、式典が盛大に

行われた。おとうじ、おひい

おぢさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

とうさん、おばあさん、お

(Y.O)

アジアジヤンボリーが、オ
三區日本ジヤンボリーとして
昭和二十七年八月三日から、
八月七日まで行なわれる。
私達四団の少年隊、年長隊、
青年隊も八月二日から八日ま
で参加することになった。

所は

静岡県御殿場市志ヶ原

海拔 150m ~ 850m

地質、地勢

日本のほぼ中心部にあたり
富士山の広大な裾野の一部、
富士と箱根の弁輪山の麓合に
にあり、駿相の分水嶺にあた
る、御殿場市の西北方、御殿
場口壑山道に面する丘陵地帯
である。

地質は前述のように、礫岩層
と火山灰や火山砂、小石など
の層から成っており、新期の

噴出物はほとんど飲率状で、
目が荒く水をよく通すので水
はけは非常に良いのが特長。
しかし、ヤブがまかないので
キャンプ地としては最良の土
地ではない。

気候

七月下旬から八月下旬にか
けては最良の天候が続くと予
想される。

アジアジヤンボリーまで

うわすかだが、各団、個人で
キャンパスの用意、計画等をし
ているだろうか、もしも準備
がなっていないなら、今日から
でもおそくないからジヤンボ
リーを自分で計画をいっ
たい。

スカウトなら誰でも自分達を
すばらしい野営をしてみたい
と思うだろう、それには準備

訓練、計画などをしっかりし
なければならぬ。

◎ キャンプの計画にすこし
も役立て下さい。

炊事場

。炊事場には、充分なゆとり
をもちたいこと。

。炊事場の台所のようには、便利で
心でよい炊事場を作ろう。

。いっの場合でも、調理台を
設けること。

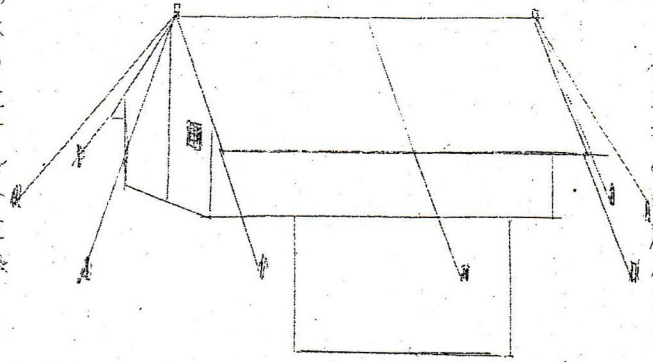
。薪のうちには、一日の材料を
とろえておく、さうすれば
準備が未だ研すの料理が
できる。

。炊事場は、も清潔に、食
物のくず等はすくすくしては
未だついでと入る。

。水場は地下三〇センチ位ま
で一分間がとむかぬいから
深ターメーター位の穴を掘

る。

して、食料等の貯蔵がで
きる。



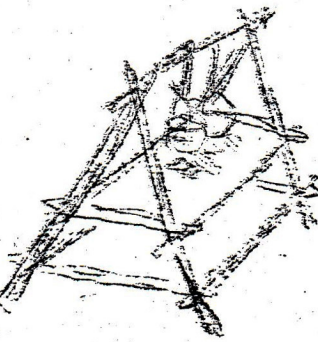
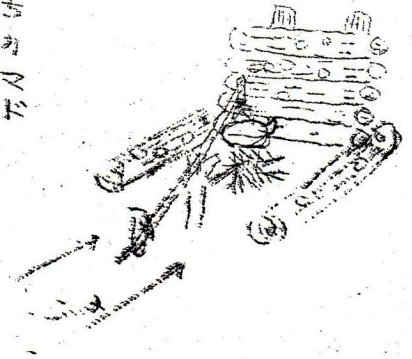
このようにテントを張って
その中を過つて貯蔵庫を作
つてもよい。

この形にもいろいろ工夫し
て作りなさい。

・反対方式カマド
場をわがしめり、筒等を過
すのはどうかとよい。

○立木カマド

大きな丸太を利用して、上
に土を積み、レンガや石等
で火床をつくつたもの。



このカマドは、多人数の研
究も便利でとても使いやす
い。シヤンホリはこの形
を好むとよい。

○野營具の準備

野、和人の用具は、各隊の
班會議で研究しよう。

また初めてキヤンパに参加
する者には、班長、次長お
よび先輩入カウトが指導す
る。

○袋録をつける

班記録、報告書を書きつけ
るべくこと。

・班内持物はじやうぶんとり
明日の仕事をさしつかえな
いようにする。

・野營の秩序を守る。

・班員がそれぞれ分担された
仕事を責任をもって果すこ
うのことば、野營を成功さ
せるためのキー条件である。

・野營場ではどんなものでも
運用、研究して野營に必要
な物を作り、野營を楽しい
ものにしよう。

(小林了千才)

団からのお知らせ

- ・今度、安積百長隊副長は、日立へ、高橋少彦隊副長は、日本精工へ、水谷久人社へ、行きます。
- ・シヤンポリーにへいて
- ・一日(A) 荷物教会集結
- ・二日(B) 午前七時教会集結
- ・八日(C) 午後六時教会解散
- ・方々、荷物の運搬は早稲田太学自動車部にお願いいたします。
- ・団備品係より
- ・隊の備品を持っていらっしゃる方は、柳までお知らせ下さい。
- ・塔が危いための少年隊の部屋が食堂にかわりました。
- ・青年隊も階下講堂の一室を借りることになりました。
- ・年少隊からのお知らせ
- ・カブは七月三十一日から二十四日まで、仲東ユースホステルで宿営を行います。

少年隊のお知らせ

- ・集会は、六時終了です。
- ・おそくとも七時以後は残りのカブをうにしていきます。
- ・なお、夕食は家庭でしめて下さい。
- ・集会中のスカウトへの連絡は特別の場合へ他は御遠慮下さい。
- ・年長隊からののお知らせ
- ・短い間でしたが、年長隊として我々と苦果を共にした吉岡、飯生両君は、この月じ家庭の事情によりやめました。なお、飯生君は、去る六月二十七日朝五時に羽田よりアメリカへ出発いたします。スカウト諸君へよろしくのこしめて下さい。
- ・青年隊からののお知らせ
- ・今度、シヤンポリーで、青年隊は東京連盟にへいて奉仕することになった。

編集後記

毎月初めに出版する事を、五月で約束しておいたが、団の都合により大月号を発行出来ず、かつ本誌をお休みいたします。今月号は、シヤンポリーが近づくため、それに間に合いた記事だけに充てておいたが、団員諸君はこれを良く読んでシヤンポリーに役立て下さい。(A.K)

発行所 東京都赤坂区南板橋十四カ
 編集人 東京中野区田中正男
 編集委員 今田富士雄
 発行 昭和三十三年七月七日
 印刷所 東京都港区赤坂南板橋十四カ
 印刷 東京中野区日本橋イスク
 編集委員 小林昭夫 大友良友
 柳健一